

あとがき

最近、多くの学会誌で投稿が減少しているようであり、この傾向は本誌においても同様である。Impact factor なる業績評価が重視されるようになった現状では、英文誌への投稿が多くなるのも理解できないことはないが、何語で書かれているように、優れた論文は読者に大きな Impact を与えるものである。これは症例報告においても然りである。症例報告は科学といった見地に立てば貴重な自然現象の記録と言うべきものであり、臨床医にとって教育的価値は高く、また疾患の病態解明に繋がる可能性を秘めている。これには稀少な症例だけでは

なく、臨床に役立つ情報をそろえた症例や今後の発展に寄与する症例などがある。1例1例を大切にすることがないと日常の多忙な毎日に押し流され、貴重な症例も目の前を通り過ぎていく可能性がある。常に投稿を意識し、日頃から文献検索を十分に行い、検査データや画像などの漏れがないようにしておかなければならない。卒後臨床研修必修化を迎えようとしている現在、症例報告の大切さを改めて考えてみては如何であろうか。

(富岡正明 記)

幹事会 (要旨) (平成 14 年 11 月)

- 庶務報告
 - 総会報告
 - 第 150 回 総会 (平成 14 年 11 月 2 日 土曜日 開催)
当 番 教 室: 解剖学第 1 講座 伊藤 正裕 主任教授
産科婦人科学講座 高山 雅臣 主任教授
表 彰 式: 投稿論文奨励賞 4 編, 医学会奨励賞 3 編
の講演並びに表彰式が行われた。
シンポジウム: 新しい画像診断 — 基礎的検討から臨床
応用まで —
8 名のシンポジストにより講演が行われ
た
特 別 講 演: 坪井 良治 皮膚科学主任教授
演題 「皮膚の再生医学」
 - 第 151 回総会 (平成 15 年 6 月 2 日 土曜日) 開催予定
当 番 教 室: 薬理学講座
内科学第 4 講座
 - 第 19 期日本学術会議第 7 部 (地域医療) 会員推薦人手続きの延期について報告があった。
 - 医学会ホームページが開設されたことについて報告があった。
 - 編集報告並びに編集状況について種々討議された。
- 臨床懇話会報告
 - 平成 14 年度 開催報告
 - 第 324 回 (14.10.23) 小児科学 武井 章人 講師
 - 第 325 回 (14.11.14) 耳鼻咽喉科学 鈴木 衛 主任教授
 - 第 326 回 (14.12.17) 内科学第 4 真田 淳 講師
 - 第 327 回 (15.01 未定) 臨床検査医学 依頼中
 - 第 328 回 (15.02 未定) 霞ヶ浦病院 未定
 - 第 319 回 (14.03.28 開催) 八王子医療センター外科学第 5 講座担当の臨床懇話会については日本医事新報 12 月号に掲載予定であることが報告された。
 - 審議事項
 - 蓮江正道名誉教授を名誉会員に推挙することが承認された。
 - 東医大誌への著作権帰属表記掲載方法について種々検討された。
 - メディカルオンラインの参画の是非について
*株式会社メテオインターゲートと電子配信業務契約
をすることとした。

医 学 会		委 員	
伊 高 小 石 鈴 内 大 屋 飯 下 星 向 J. P. 浅	東 山 柳 丸 木 野 善 一 眞 輝 明 加 井 巴 羅 倉	雅 奈 新 衛 生 馬 輝 明 清 樹	(会 長) 荒 井 貞 夫 (副 会 長) 一 岩 本 俊 任 (庶 務 幹 事) 遠 藤 英 (編 集 幹 事) 後 福 松 宮 輝 純 一 (會 計 幹 事) 松 水 宮 正 史 (監 事) 森 行 安 岡 哲 (委 員) 夫 淳 彦 (〃) 浩 尚 健 彦 (〃) 純 一 明 典 男 (〃)

編集委員会

内 大 遠 松	野 敷 藤 岡	善 一 任	生 馬 衛 彦 健	松 水 森 行	宮 口 安 岡	輝 純 一 史 哲	彦 郎 典 男
---------	---------	-------	-----------	---------	---------	-----------	---------

平成 15 年 4 月 15 日 印刷

平成 15 年 4 月 25 日 発行

東京医科大学雑誌 第 61 卷 第 1 号

発行者 伊 東 洋

発行所 東京医科大学医学会

(東京医科大学内)

〒 160-8402

東京都新宿区新宿 6-1-1

TEL 03 (3351) 6141 (代)

FAX 03 (3226) 7030

e-mail address

igakukai@tokyo-med.ac.jp

印刷所 笹氣出版印刷株式会社

〒 984-0011

仙台市若林区六丁の目西町 8-45

TEL 022 (288) 5555

当該雑誌に掲載された論文の著作権は本医学会に帰属する。

また本書の無断複写 (コピー) は著作権法上での例外を除き禁じられている。